



## ボーダー（境界）を越えて

### ■ Leon Strous

社会はますます ICT に依存し、日常生活への ICT の影響は大きくなりつつあります。この現状の中で、多くの挑戦が生まれています。不適切な設計や、ソフトウェアやハードウェアのエラー、天災や人災（不注意によるものや意図的なもの）は、多くの経済的および人命の損失を引き起こします。これらを解決することはたやすいことではありません。なぜなら、システムやその基盤はどんどん複雑になり、相互依存し、国境等のボーダーを越えてしまうからです。この問題の対策として必要なことは、多様な観点で「ボーダーを越えて考える」ことです。つまり、多様な専門性の間、異なる種類の関与者同士や異なる地域や国の間での協力が必要なのです。実際、情報システムや基盤の開発、構築、保持、統制にかかわる組織や人々は、システムが安全・高品質で問題が生じないようにする役割を担うのです。

オランダの金融部門を例に挙げましょう。あらゆる基盤や情報システムは国際化が進んでおり、特に金融部門についてはそうです。たとえばヨーロッパにおける銀行間の決済システムは、20 以上の参加国からなる欧州中央銀行制度 (European System of Central Banks) によって運営されています。また、企業により運営されているシステムは、一国あるいは少数の国に拠点を置きながら、多数の国で提供されています。これらのシステムはあなたの会社や国に影響を及ぼすかもしれませんが、それらを頑健にしたり、必要な措置を講じたりするようなことには、あなたは直接かかわることはできないのです。つまりすべての関係者の協力がシステムや基盤のレジリエンス（強靭さ）を確保するためには欠かせないのです。オランダでは、そのために数々の公式・非公式なグループが作られました。これらのグループは、情報セキュリティ、物理的なセキュリティ、事業継続性やリスク管理、決算システムの分野の

■ Leon Strous  
情報処理国際連合 (IFIP) 会長

フィリップスエレクトロニクスで8年間勤務したのち、1993年よりオランダの中央銀行であるオランダ銀行(DNB)に勤務。1988年よりオランダコンピュータ協会、1994年よりIFIPで活動。2001年から2007年までIFIP TC-11(セキュリティ委員会)の委員長、2010年よりIFIP会長。



専門家によって構成されています。

組織として、銀行、金融市場基盤企業に加え、さまざまな調整役が参加しています。たとえば、財務省、中央銀行とオランダ証券当局、サイバーセキュリティにかかわる政府機関などです。金融部門と通信部門は、決算システムの通信サービスをロバスト（堅牢）にするための共同プロジェクトを実施しています。さまざまな国の組織からグループが構成されており、これらのグループがこうした協力体制が効果的であることを証明しています。では、もう十分でしょうか？ いえ、まだ大いに改善の余地はあります。課題は、セキュアでロバストな情報システムの設計と開発です。異なる領域からの見識や展望が、システムの質の向上には欠かせません。

ICTの専門家による学会の役割は多岐にわたると考えます。情報処理学会やIFIPのような学会は、技術開発を進めるとともに、研究やイベントを通して知識を広める必要があります。また、ICT就業者の専門性の促進と強化を行う必要があります。このコラムで皆さんに特にお伝えしたいのは「ボーダーを越えて考える」ことの奨励と促進です。さまざまな分野の専門家とICTの間の異分野協力は確かに増えつつあります。しかし、さらに多くの異分野、たとえば、建設工学、心理学、法律学といった分野との協力にも目を向ける必要があります。ICTの専門家のための学会には、さまざまなタイプの協調のためのプラットフォームを提供するためのネットワークや活動があります。協調は大変なことであり、簡単にできるものではありません。しかし、必要なことであり、努力に値するのです。

